



# 新年増大号

風神山から見た朝日

## CONTENTS

■年頭所感 ..... 2~10	■国・県・市からのお知らせ ..... 24
■誌上名刺交換 ..... 11~17	■会員交流会のご案内 ..... 25
■新春特集：7部会長座談会 ..... 18~21	■読者アンケート ..... 26
■新年名刺交換会 ..... 22	■協賛広告 ..... 27~36
■会議所インフォメーション ..... 23	



発行所 ●日立商工会議所 〒317-0073 日立市幸町1-21-2 発行人 ●鈴木昇

購読料 ●200円 (購読料は会費の中に含まれています)

TEL 0294-22-0128 FAX 0294-22-0120 ホームページ <http://www.hitachicci.or.jp/>



後、地方創生事業の一環として、日立市と共同でおこないました同事業をスムーズに進めることにも繋がりました。今後も新体制のもと、地域の総合経済団体としてのリーダーシップを發揮し、会員事業所の皆さまの立場に立った基本的な事業を着実に進めてまいります。

昨年は、リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックに世界が興奮と感動に包まれました。当市におきましても、第87回都市対抗野球大会で創部100年を迎えられた日立製作所野球部の快進撃に市民をはじめ産業界も大いに沸き上が

りました。また、金融・サービス業界での事業者それぞれの強み・特性を活かした企業グループが充足するなど、今後も広い分野で同様の事象が加速度的に進んでいくものと予想されます。まさに、国内外ともに予測の難しい新たな変革の時代の到来を感じずにはいられません。

力の大いに駆使することが求められております。商工会議所といたしましては、中小・小規模企業の成長・発展を促すため、経済産業省の認定を受けました「経営発達支援計画」をベースに、金融や税務などの基礎的な相談に加え、より専門的な相談に対応する、きめ細かな伴走型支援態勢の充実に努めてまいります。加えて、昨年小規模事業者による茨城マルシェでの地元製品の販売会や今後の地元製品の販売会や今後予定のものづくり業者による展示商談会への参加を通じて、外向きの事業展開の機会を応援してまいります。

商業やサービス業関連では、大規模商業施設等の郊外化の伸展やコンビニエンスストアの競争激化などにより駅前周辺・中心市街地の空地化などが顕在化していることから、新たな商業・サービス機能について若手事業者による研究がすすめられています。ものづくり関連では、企業の統合やグローバル化など大きな潮流のなかで、地域中小企業の技術力を高め受発注に結びつける動きも見られます。観光振興関連では、昨秋開催の茨城県北芸術祭で多くの来場者に当市を訪れていただきました。当市が有する産業や歴史・文化遺産等

このような環境のなか、わが国の経済成長を持続軌道に乗せるには、全国企業の99%を占める中小企業の成長が極めて重要であり、それを後押しする施策が必須であると思います。まさに、中小企業の強みでありますスピーディな経営判断

商業やサービス業関連では、大規模商業施設等の郊外化の伸展やコンビニエンスストアの競争激化などにより駅前周辺・中心市街地の空地化などが顕在化していることから、新たな商業・サービス機能について若手事業者による研究がすすめられています。ものづくり関連では、企業の統合やグローバル化など大きな潮流のなかで、地域中小企業の技術力を高め受発注に結びつける動きも見られます。観光振興関連では、昨秋開催の茨城県北芸術祭で多くの来場者に当市を訪れていただきました。当市が有する産業や歴史・文化遺産等

の観光資源の魅力度をさらに高めるため日立市・日立市観光物産協会と連携し諸行事や海水浴場を含めた情報発信にも努めてまいります。

会員事業所の皆さまには、大きな変革の時代ではありませんが、勇気を持ち、共に新しい時代を新たな発想で拓いてまいりたいと存じます。

結びといたしまして、会員各位並びに関係者皆さまのますますのご繁栄を祈念し、年頭のご挨拶といたします。





年頭所感



日本商工会議所 会頭 三村 明夫

明けましておめでとうございます。

平成29年の新春を迎え、

謹んでお慶び申しあげます。

昨年11月の臨時会員総会におきまして、各地商工会議所の皆様のご推挙をいただき、日本商工会議所の会頭に再任され、日商会議所として4回目の新年を迎えました。各地商工会議所におかれましては、新体制のもと、新たな年を迎えておられることと存じます。日商としましては、改めて、515商工会議所125万会員の皆様と総力を結集し、商工会議所の使命である、企業の繁栄、地域の再生、日本の成長の同時実現に向けて、全力で取り組んでまいります。昨年は、世界中で政治的

に様々なサプライズが発生しました。加えて、地政学的混乱の悪化、余剰マネー等の動きによる株価や為替の大きな変動など、振幅の大きい不安定な一年でした。本年もおそらく国際政治の大きな動きが金融市場を揺さぶる場面などがあるかと思えますが、幸いにして我が国には、世界に誇る安定政権がありますので、いたずらに動揺することなく、じっくりと直面する課題に取り組みむことができます。我が国の最大の課題は、足元で0.2%台まで下がってしまつた潜在成長率を

引き上げることです。「人手不足」と「生産性向上の停滞」が潜在成長率を押し下げるボトルネックとなつていきますので、サプライサイド政策に力を入れて取り組むことが必要です。

としまして重点的に取り組むべき課題は、「中小企業の成長の底上げ」と「地方創生の実現」です。中小企業が直面している最大の課題が、「人手不足への対応」です。

回っている中小企業もあり、そうした企業に共通するのは、経営者の成長への意識が高く、ITや設備投資などに積極的であるという点です。ここに生産性向上の鍵があると考えます。

サプライサイド政策の特徴のひとつは、政策の打ち出しから成果がでるまで時間を要するということです。また、規制改革等の構造改革は、国全体の効率化・生産性向上を図る政策であり、一部の人には痛みを伴うことから、利害の調整という政治本来の役割が必要となることも特徴です。

従いまして、政府も民間も、アベノミクスのサプライサイド政策には、時間と粘り強い取り組みが必要であることを自覚するべきです。こうした中、商工会議所

人手不足には、その解決を図る過程で、構造改革の中でも最も難しいと言われている「働き方改革」を加速するとともに、若者と女性の活躍する場を拡大し、さ

らには、IoT、AI、ICT技術導入の大きなインセンティブにもなるポジティブな面もあると言えます。中小企業が直面するもう一つの課題は「後継者の確保」であります。

商工会議所として、事業承継の支援を積極的に推進するとともに、事業承継の大きなハードルとなっている「事業承継税制の見直し」についても、提言を続けてまいります。

我が国の付加価値額の約半分は、三大都市圏以外の地方で生み出されており、「地方創生の実現」は、潜在成長率の引き上げと持続的な経済成長に不可欠であります。また、東日本大震災や熊本地震の本格復興、福島再生の早期実現なしに日本経済の再生はあり得ません。

私は、地方創生の実現に向けて、広域観光振興や農工商連携など、地域の資源や強みを最大限に活用した成長産業を育成し、域外の需要、消費、投資を取り込むことの重要性を繰り返し申し上げてまいりました。さらに、地域で産んだキャッシュは、地域で消費する循環を創出することが重要だと思えます。

観光産業は、担い手の大半が中小企業であるとともに、自動車産業に次ぐ消費規模を持つ一大産業です。現在、全ての商工会議所に観光担当者が設置され、ネットワークを活かした観光商品の開発が進んでいます。未だ見落としている地域の自然や伝統文化などを掘り起こして磨き上げ、ストーリーをつけて売り出し、地域を挙げておもてなしをする持続的な取り組みを、一層加速していくことが必要であると思えます。

また、2020年オリンピック・パラリンピックは、我が国の観光、文化、特産品、技術等を世界的にアピールする絶好の機会です。地方と都市の広域連携により、国全体のバランスのとれた成長に繋げていくため、各地域において、国際交流、ビジネスチャンスの拡大、観光振興等に積極的に取り組んでいただきたいと思えます。

農林水産業も長い年月をかけて育てられた貴重な地域資源です。大規模化やコスト削減など、競争力強化に向けた農業改革が進み、また、2020年に輸出額1兆円を目指した政府目標

が前倒して達成される見込みとなるなど、海外を含めさらなる市場の拡大が期待できる成長産業であります。商工会議所と農林水産業団体との連携によって付加価値の高い商品を開発し、海外も視野に入れ、広く販路を広げていくことが重要です。

さらに、地方の中小企業には、高い技術力と競争力を持ち、世界マーケットを狙えるものづくり企業が数多くあり、これも地域の重要な財産です。

こうした地方創生の取り組みを支え、加速するのが、物流・人流の円滑化を促す社会資本整備であります。とりわけ、地方創生にとつて効果が大きい整備新幹線、高規格幹線道路、大型クルーズ船に対応した港湾の整備、コンセツションを活用した空港民営化などは、観光客の増加、設備投資の促進、雇用創出などに大きく寄与するものです。

民間投資を喚起するストック効果を重視しつつ、商工会議所としても、社会資本整備を強く要望していく必要があると考えております。

政治的な混乱はあるもの

の、欧米の経済は堅調と言えます。OPEC・非OPEC諸国の合意により原油の減産が決まり、原油価格も適正な価格に向け上昇し始めています。我が国もまだ大企業の動きではありませんが、景況感が好転しつつあります。これは私の仮説ですが、我が国は、2〜3年間の時間的な猶予を得られ、時間と腰を据えた取り組みが必要なサプライサイド政策に大きく舵を切るチャンスを与えられたと言えると思えます。

私達は、短期的な動きに一喜一憂することなく、与えられた猶予の大切さを認識した上で、構造改革とイノベーションを着実に深化させていかなければなりません。成長のトレンドを変えるため、これから2〜3年が、我が国にとって勝負の年となります。

日本商工会議所としても、515商工会議所、青年部、女性会、海外の商工会議所等との緊密な連携の下、企業、地域、そして、日本経済の持続的な成長の実現に向け、全力を尽くしてまいります。

### 今年<sup>とし</sup>は酉年



酉は十二支の動物の中で、ただ一つの鳥類です。単に鳥というところ、ニワトリ(鶏)を思い浮かべる人も多いようですが、ニワトリは人間と最もなじみ深い鳥。

ニワトリといえば卵ー日本人が一年間に食べる卵の数は、一人当たり329個(世界鶏卵評議会・2011年出典)で、これはメキシコに次いで世界第2位です。ニワトリには随分お世話になっているわけですね。

ニワトリのルーツは、東南アジアの密林や竹林に生息しているセキシヨクヤケイ(野鶉)が祖先とされています。日本では『古事記』や『日本書紀』に記される天岩戸伝説において、常世長鳴鶏を集めて鳴かせたという記述があります。これは、天照大神が天(あま)の岩屋(いわや)にこもったとき、天地が常闇(とこやみ)になってしまったため、その岩屋から出てもらおうと常世(とこよ)の長鳴鳥(ながなきどり)を鳴かせたということとです。

東南アジアには、ニワトリが太陽を呼び出すいろいろな神話・伝承があるそうです。





# 年頭所感



## 笑顔輝くまちの実現へ

### 日立市長 小川 春樹

輝かしい2017年の新春を皆様とともに

迎えることができましたことを

心からお喜び申し上げます。

輝かしい2017年の新春を皆様とともに迎えることができましたことを、心からお喜び申し上げます。

秋山会頭はじめ、日立商工会議所会員の皆様には日頃から、市政各般にわたり温かい御支援、御協力をいただきしており、厚くお礼申し上げます。

昨年は、人口減少を始めとする様々な課題を克服するため、地方創生の実践の年と位置づけ、日立市版の

年でありました。

また、久慈地区でBRTの整備と一体的に進めてきた取組が、全国の優れたまちづくりを行った地区として、まち交大賞を関東地区で初めて受賞するとともに、かみね動物園の入園者2,000万人達成やエンリッチメント大賞の受賞、創部100年目を迎えた日立製作所野球部の都市対抗野球大会での準優勝、東京ガスの日立LNG基地の竣工などの明るい話題も数多くありました。

本市としましても、本年は、東日本大震災からの復興の総仕上げである新体育館「日立市池の川さくらアリーナ」が1月に、市役所新庁舎が7月頃には供用を

開始できる見込みとなっており、本市のまちづくりの中心拠点施設として、また、災害時の防災拠点施設として、大きな役割を担うものと期待をしているところで

また、平成29年度を初年度とする今後5年間のまちづくりの指針である後期基本計画の策定にも取り組んでおります。策定に当たりましては、市民の皆様から幅広く御意見をいただきながら、現在取り組んでいる日立市版の地方創生総合戦略の内容も十分に反映させ、「人にやさしく」「人を呼び込み」「人を育てる」一人ひとりの笑顔輝く私たちのまちづくりに全力で取り組んでまいります。

今後も日立商工会議所の皆様とともに、地域の雇用や活力を担われている企業の皆様への御支援や、ものづくりのまちとして育まれてきた技能・技術の伝承や新たな創造を支える人材の育成、将来に向けてのインフラの整備促進など、更なる産業の活性化に努めてまいりますと考えておりますので、日立商工会議所の皆様には、引き続き、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、日立商工会議所のますますの御発展と、本年が会員の皆様方にとりまして御家族共々、実り多き一年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年の御挨拶といたします。



年頭所感

平成二十九年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。



地域に活力を！

日立市十王商工会 会長 和田 芳信

最後にりましたが、皆様にとって本年が良い年になりますようご祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

平成二十九年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。商工会議所会員事業所の皆様におかれましても、健やかに新春をお迎えることと思います。

平素より日立商工会議所の皆様には、商工会運営全般にあたり、ご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。新春にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。昨年はいくつかの天災に見舞われた年でありました。熊

本地震・台風十号の上陸・阿蘇山噴火、また当地区でも福島県沖地震があり、当日は常磐自動車道やJR常磐線の一部がストップするなどし、通勤時間帯であったことも重なって混乱が生じ、東日本大震災を思い起こした方も多いのではないのでしょうか。被害に遭われました方々には心よりお見舞いを申し上げます。

経済状況につきましましては、長期低迷を経てようやく景気が好循環し始めたように感じます。しかしながらそれも一部の大手企業の話であり、地方の中小企業の取り巻く環境は依然として厳しい経営を強いられております。当地区においても毎年廃業で退会する事業所が多く、会員の減少に歯止めがかからない状況が続いております。

このような景気に少しでも活力を取り戻すため、昨年茨城県では日立市・高萩市・北茨城市・常陸大宮市・常陸太田市・大子町を舞台として国際的な芸術祭「県北(ケンポク)芸術祭」が九月十七日〜十一月二十日にかけて開催されました。

会期中は総来場者数が約七十七万六千人と当初の予想をはるかに超える方々に足を運んでいただけました。それもあってか、日立市のブランドとして定着しつつあるポポーの実を使ったワイン・アイスクリーム・ソフトクリームなども大変好評をいただいたところでございます。

本年は、従来からのキャッチフレーズである「行きまします・聞きます・提案します」をもとに、巡回指導を徹底し、小規模事業者持続化補助金やものづくり補助金等を周知し、会員の皆様の経営に少しでも役立てるよう努力して参ります。

本年は、従来からのキャッチフレーズである「行きまします・聞きます・提案します」をもとに、巡回指導を徹底し、小規模事業者持続化補助金やものづくり補助金等を周知し、会員の皆様の経営に少しでも役立てるよう努力して参ります。



# 2017 副会頭年頭所感

副会頭 小峰 保信



新年おめでとうございませう。会員事業

所の皆様には謹んで新年のお喜びを申し上げます。

平素より当所事業運営につきましましては、ご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

私は、昨年の11月1日付で日立商工会議所副会頭を仰せつかりました小峰でございます。前任者同様よろしくお願い致します。

さて、昨年の我が国の経済は、政府の経済政策の推進により全体として緩やかな回復基調にあったとの事ですが、中小企業の事業環境は依然として厳しく、先行き不透明な状況が続いております。

また、地元リーダー企業の諸合併統合等、さらには再編による産業構造の変革に伴い、かつてない大きな変化が求められております。

このような状況の中では、自社の強みを再認識し、顧客へアピールしていく

事、新たな経済環境の中で、新しい時代に向かって挑戦して行く攻めの企業経営が必要かと思われませう。

そして、商工会議所が支援できる事は何かを議論しながら協力してまいりたいと思っております。今後とも、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い致します。

会員の皆様には、より良き年でありますよう、ご祈念申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。

また、地元リーダー企業の諸合併統合等、さらには再編による産業構造の変革に伴い、かつてない大きな変化が求められております。

副会頭 郡 司 洋子



新年おめでとうございませう。会員の皆

さまにおかれましては、健康やかな新年をお迎えのことと心よりお慶び申しあげま

す。また、日頃よりご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて昨年より、新たに副会頭に選任されました。生まれ育った大切な日立市のため、誠実に取り組んでまいりたいと思っております。

昨年、日本の総人口が調査開始以来、初めて減少したとの発表がありました。さらに日立市では転出超過が全国市町村で4番目に多いそうです。市の活性化において、教育に携わるものとしても、人口減少や少

子化は深刻な問題です。しかし、生涯学習として大人向けに企画した会議所事業『悠々そらばん学習会』などは毎年ご好評を頂いております。逆境にあってもできることがある、と新しい発想を持って臨みたいと思

ます。また、これまで日立商工会議所を通じて、多くの出会いに恵まれました。これからも会員の皆様のご支援をいただきながら、人と人をつなぐ橋渡し役となれるよう務めてまいりたいと思

います。皆様にとって、実り多い1年でありますようご祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

また、これまで日立商工会議所を通じて、多くの出会いに恵まれました。これからも会員の皆様のご支援をいただきながら、人と人をつなぐ橋渡し役となれるよう務めてまいりたいと思

います。皆様にとって、実り多い1年でありますようご祈念申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。



副会頭 武田 太志



新年おめでとうございませす。会員の皆

様には謹んで新年のお慶びを申しあげます。

この度の議員改選で、商業部会から副会頭になりました榎葉匠ただの武田太志です。

昨年は、世界を見渡しますと中東情勢の変化、英国の欧州連合離脱や米国のトランプ新政権の誕生など、共同を模索したグローバルからローカルへ振り子が大きく振れた1年でありました。

一方、地元を向ける、交通の発達に伴い、近隣の商業地域に人が流れ、商店街が衰退し個店の力も奪われつつあります。また

副会頭 松山 圭吾



新年おめでとうございませす。会員の皆

様におかれましては、健康やかな新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

また、平素から、日立商工会議所へのご支援、ご協力を頂きまして、厚く御礼申し上げます。

昨年のイギリスのEU離脱決定やアメリカ大統領選でのトランプ氏の当選など、誰にも予想も立てられない不確実性の時代の中で、日本人は大きな荒波に呑み込まれようとしています。グローバル化した世界経済の中で、地方で小さな商圏で小さな商売をしている飲食店や物販業にまで、影響が出て来てくる時代です。

その中でも、私達日本人は、逞しく生きていかなければいけません。私も商工会議所の議員になって10年目となり、昨年の11月に大命を受け、副会頭に着任させて頂きました。『まちなかの賑わい作り』『観光資源の発掘』『地産地消』を自分のテーマにして、今年1年頑張る所存でございます。まだまだ、若輩者ですが、よろしくお願い致します。

最後に、会員の皆様にとって、今年1年が、良き年でありますようご祈念申し上げます。年頭の挨拶とさせていただきます。

宝船

「なかきよのとのおのねぶりのみなめざめ、なみのりぶねのおとのよきかな」この歌は、上から読んでも、下から読んでも同じです。江戸時代には、良い夢を見るようにと、宝船の絵とこの歌を書いた紙を枕の下に置いて寝たそうです。正月には宝船売りが「お宝、お宝」と言いながら絵を売り歩きました。明治時代になってもこの風習があったそうです。

宝船には、米俵や財宝が乗っているだけのものもありますが、多くは、七福神が乗っていました。

七福神とは恵比須、大黒天、弁財天、毘沙門天、布袋、福祿寿、寿老人をいいます。面白いのは、この顔ぶれは、神さまと仏さまがまざっていることです。正月の七福神もうでは、もうでる所が神社と寺と両方まざっているのです。例えば大黒天が神社に祭られていたり、寺であったりするのは、町人の信仰のおおらかさなのでしょう。

また、七福神のふるさとインド、中国、日本とまちまちです。国際化のさきがけみたいなものでね。



# 年頭所感

新年おめでとうございます。本年が会員の皆様にとりまして笑顔の多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、女性の事業の一つであります「一人一品持ち寄り運動」が地域社会への貢献として認められ、昨年11月に日立市社会福祉協議会より感謝状をいただきました。微力ではございますが、これから



# 年頭所感

新年おめでとうございます。青年部では、昨年「日立さくらまつり」「ひたちサントアートフェスティバル」協力、日立市サッカー協会主催事業への協賛などを実施し、地域活動活性化の一助となるべく取り組んで参りました。

地方の人口減少が続くなか、日立市も人口減少に歯止めが掛からない現状となっております。青年部では若者に日立の素晴らしさや住みやすさを認識してもらい、日立を愛することが人口減少の解決策の

日立商工会議所女性会

会長 弓野孝子



も細く長く続けていきたいと考えております。

また、様々な事業を実施し、会員相互の理解と交流が図られたらと企画検討中でございます。普段のお付き合いでは分からないところを発掘（発見）できたらと考えております。

そして、近年では女性リーダーの活躍が脚光を浴びるようになってまいりましたが、

日立商工会議所青年部

会長 佐藤歳宣



一つになるのではないかという思いから、優秀な若者が地元企業に就職できるように今年も「就活フェス in ひたち」を3月に開催します。若者と地元企業の結びつきの一つの機会として、地元を構え中小企業と若者が一緒になって地域を盛り上げ、我々経済人と若者が手と手を取り合っ

豊かな日立を創造していききたいと考えております。

また、地域の賑わい創りとして「常陸ノ国グルメフェス」を今年も日立さくらまつりの

日立という土地柄でしようか「リーダーになるのはちよつと」と思ってしまう女性が

多いように感じられます。リーダーは孤独！否定はしませんが、むしろいろんな事を勉強する機会が与えられ、人間を豊かにしてくれるのではないかと思っております。

日立を明るく照らすのは「女性の笑顔」今年もよろしくお願いいたします。

プレイベントとして4月に開催します。是非会場にお越しください。

当青年部は、これからも情熱を持って地域貢献のため、全力で取り組んで参りたいと考えておりますので、より一層のご支援とご協力を賜りますよう心からお願ひ申しあげます。

結びに、会員の皆様にとりまして、より良い年でありますよう心よりご祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## トレンド通信

### 「方言や外国語の

### ネーミングに要注意」

地域発のヒット商品をつくるための奮闘を各地で取材させてもらいながら「これはただでないな」といつも思うことがあります。その一つが商品やサービスのネーミングに、地域の方言を使うことです。理由は、ひとえに内容や価値が伝えない相手に伝わらないからです。伝わらないのを承知でその名称を採用している理由が私には理解できません。分かる人だけを相手にすることや、知りたければ勝手に調べろという姿勢そのものが、今日の市場を相手にしたビジネスでは決定的に不利なことだと思います。「何だろう」と興味を持ってもらう以前に、選択肢から外れてしまいます。厳しい言い方ですが消費者から見れば同じようなジャンルの商品やサービスの代わりは世の中にくらでもあからずうです。

先日、長野県のある商工会議所を訪ねてお話をする機会がありました。地域で新しいマルシェ(市場)を立ち上げようとしていたのですが、その名前は「おこっそフェア」でした。おこっそは「おこっ」という意味ですが、他の地域の人には伝わりません。とても良い試みで、地元で運営ノウハウや商品ラインアップの整備などの内容を充実させて、ぜひ首都圏でこのマルシェを出展展開してほしいと思いましたが、また、その際にはぜひイベントの名称を考え直してほしいとお願いしました。

筆者の出身地の和歌山県でも似たような話がいくつもあります。たとえば、東京の人形町に和歌山県のアンテナショップがありますが、その名前は「いこら」と

いいです。ひらがなで「い、こ、ら」です。何だと思いませんか？ 東京在住の私の周りの人は一人も意味が分かりませんでしたが、和歌山出身者なら「行きましよう」という意味だと知っています。しかし、東京でそれが分かる和歌山出身者にこの店で県の産品をアピールするのはアンテナショップの目的には合わないでしょう。

単にその言葉が問題なのではありません。相手に伝わらないネーミングを採用してしまふ、消費者目線をまったく持たない感覚が問題なのです。それを改めない限り同じような誤ちを繰り返すでしょう。

商品やサービスのネーミングに外国語を使うことも同じような注意が必要です。英語やフランス語、イタリア語などまたには外国語があふれています。だからといってなんとなかなくカッコいいからという理由で外国語を使うと消費者に真意が伝わらない恐れがあります。先日もある地方のお酒で耳慣れない名前を見かけて、その意味を生産者に尋ねました。「これは英語の○○という意味の単語と○○を組み合わせた造語です」とのことでした。私はそれを聞いてとてもがっかりしました。そのお酒はとても良く出来ていて良いストーリーもあり、国内外にどんどん紹介したいと思っておりましたが、やめました。消費者目線を持たない生産者ではどこを紹介してもきつと後で問題が起きるからです。

日経BPヒット総合研究所 上席研究員

渡辺 和博